

- シダトレンスギ花粉舌下液(鳥居)  
 200JAU/mLボトル(10mL)  
 2000JAU/mLボトル(10mL)  
 2000JAU/mLパック(1mL:14包)

**【警告】**緊急時に対応できる医療機関で、舌下免疫療法(減感作療法)及び適正使用eラーニング(鳥居薬品)を受講修了の専門医に限る。  
 薬剤師：処方医の受講修了を確認。

**【特】**a.患者が自ら服用する製剤。

b.本剤によるアナフィラキシー等のアレルギー反応誘発に注意。

**【効】**スギ花粉症での減感作療法：

a.12歳未満,65歳以上は未承認。

b.スクラッチテスト,皮内テスト,又は特異的IgE抗体検査で

スギ花粉症と確定診断する。

c.前シーズンでの花粉飛散時期での症状を踏まえ,他の治療法も勘案し,本剤の適用の可否を判断する。

d.スギ花粉以外のアレルゲンにも反応性の高いスギ花粉症には未承認。

(特異的IgE抗体値が高い)

c.スギ花粉飛散時期からの

新規開始は禁止  
 (アレルゲンへの過敏性亢進のため)

d.投与後30分以上安静状態を保つこと  
 (初回は医師の監督下で)。

(アナフィラキシー等への対応を準備)。

e.服用前後2時間程度は激しい運動,

飲酒,入浴等を避ける→副作用。

f.家族のいる場所や日中に服用

(アナフィラキシー等に注意)。

**【用】**1日1回舌下に滴下し2分間保持する,  
 以後5分間は,うがい・飲食を禁止。

a.増量期(1~2週目)：

- ・1週目は200JAU/mLボトル
- ・2週目は2,000JAU/mLボトルを用い  
 1,2日目0.2mL→3,4日目 0.4mL  
 →5日目 0.6mL →6日目 0.8mL  
 →7日目 1mLと漸増する

b.維持期(3週目以降)：

2,000u/mLパックを用い,1日1回1mL。

**【禁】**1.本剤でショックの既往歴。

2.気管支喘息：重症に禁忌。

軽症に慎重に(喘息誘発)。

3.悪性腫瘍,又は免疫系に影響を及ぼす全身性疾患(例えば自己免疫疾患,免疫複合体疾患,又は免疫不全症等)。

**【慎】**本剤,又はアレルゲンエキス,スギ花粉含有食品でのアレルギー歴。

**【注】**1.抜歯後,口腔内炎症等→

吸収に影響→傷や炎症部位に刺激。

2.症状改善時：中止は慎重に

→再発のおそれ。

3.本剤のアレルギー反応へ対処時：

・非選択的β遮断薬服用中→  
 アドレナリンの通常量では  
 効果不十分ことがある。

・三環系抗うつ薬,MAO阻害薬服用中  
 →アドレナリンの作用が増強。

・重症の心疾患,肺疾患,高血圧症で  
 →アドレナリン投与で症状悪化。

4.全身性ステロイド薬投与時

→免疫系抑制で,本剤の効果消失。

5.初回の花粉飛散時期終了時に無効

→以降の継続は慎重に判断。

**【患】**1.妊娠中：アレルギー反応で→

ヒスタミン遊離→子宮収縮作用。

2.授乳婦には禁.授乳禁。

3.喘息発作時,激しい気管支喘息症状,  
 急性感染症罹患時,体調が悪い  
 →服用可否は医師に相談。

**【副】**A.重大：ショック,アナフィラキシー

D.口腔内副作用(1ヶ月後から)→口腔内炎,舌下・口腔内腫脹(維持期開始初期),口腔内そう痒・違和感,舌下浮腫・そう痒感,舌そう痒・ヒリヒリ感。

鼻汁,くしゃみ,鼻部そう痒,鼻閉,眼脂,眼のそう痒,眼の充血,眼瞼浮腫,流涙,耳そう痒,耳違和感,耳鳴,咽喉頭そう痒,咳喘息,咽喉頭違和感,嘔声,下痢,胃痛,腹痛,嘔吐,頭痛,めまい,立ち眩み,皮疹,蕁麻疹,顔面腫脹,中毒疹,顔面潮紅,そう痒,口唇浮腫・腫脹,手足の浮腫,不快感,倦怠感,頻脈,発汗,発熱,脱力感,リンパ腺腫脹,動悸

**【備】**2~8℃保存,

有効期間：ボトル1年6ヵ月,パック2年,